

本文【<http://www.jamee.info/file/jameer/2020/jameer130119.pdf>】を開くにはパスワードが必要です。
日本水圏環境教育研究会 (hypomesus@gmail.com) にご連絡下さい。

水産・海洋系高校レポート

水産高校の魅力 神奈川県立海洋科学高等学校

坂本 優

I はじめに

海のない埼玉出身の筆者にとって、水産高校



は全く縁のない高校でした。埼玉には農業高校や商業高校、工業高校はあるものの、水産高校はありません。そしてなによりも海まで距離があります。しかし、とあるきっかけで実習船について興味を持ち始め、それから徐々に水産高校の魅力に引き込まれていきました。本レポートでは、そのきっかけを作ってくださった神奈川県立海洋科学高等学校（以下「海洋科学高校」とする。）について、筆者が感じた魅力を紹介します。

II 海洋科学高校について¹⁾

1. 概要

神奈川県立海洋科学高等学校は、2008年3月、神奈川県立三崎水産高等学校から改称された神奈川県唯一の水産系単科高校で、2020年には神奈川県水産講習所から通算して80年(海洋科学高校としては創立12年)を迎える伝統校です。校訓は「海を知り、海を守り、海を拓く」。教育方針は「海洋をとりまく社会や産業の多様化・国際化に対応し、海洋科学に関して幅広く学び、高度な教育につなげる大学などへの進学を視野に入れ、スペシャリストの基礎や将来海洋関連産業で活躍できる人材を育成する。」です。

海洋科学高校の代表的な教育活動といえば、

船舶運航コースの航海実習です。総トン数696トンの大型実習船「湘南丸」に乗船して各地の海を航海します。代表的な航海は毎年4月から6月までの2ヶ月間と9月から11月までの2ヶ月間に行われる湘南丸での太平洋遠洋航海で、その間マグロ延縄実習やハワイ訪問などを行います。その他、秋季には国内沿岸航海を行い、不定期で東京湾周辺航海などを行います。過去の航海実習記録については神奈川県立海洋科学高等学校ホームページ(<https://kaiyokagaku-h.penkanagawa.ed.jp/enyokokai.html>)をご覧ください。

海洋科学高校の教育活動は航海実習だけではありません。「海を守り」(校訓)や「海洋科学」の名の通り、生物系列では漁協や神奈川県水産技術センター、神奈川県栽培漁業協会等と協力してヒラメ、アワビ、ナマコの種苗生産と放流を行っています。さらに、近隣の東京大学三崎臨海実験所と連携協定を結んでおり、毎年秋の「海洋祭」では東大三崎臨海実験所も参加し、研究内容等を展示します。東大との連携も海洋科学高校の魅力の一つです。

加えて、船舶のエンジニアを養成する機関系列・水産工学科と水産高校無線科に相当する情報通信系列・情報通信科があります。機関関係では、校内に船舶用エンジンが設置された実習施設があり、本物の船舶用エンジンを使用して実習が行われています。

水産高校といえば缶詰ですが、海洋科学高校にももちろんあります。これは食品系列が実習で製造し、販売します。缶詰は海洋祭や不定期で開催される実習製品販売会の人気商品です。

2. 設置コース(2020年11月1日現在)

設置されたコースについて紹介いたします。紹介文はホームページより抜粋しました。